



週報

■8月は、『会員増強新クラブ結成推進月間』

第1489回例会 2017年8月24日 Vol.32/No.7

■本日の例会／第1490回 平成29年8月31日(木)

- 会長・幹事報告
- 各委員会報告・各委員長
- 会員増強拡大プログラム・職業分類・増強委員会
江島 寛 委員長
- 新クラブ設立についての説明会・鳥山 浩

【出席率状況報告】

- ・会員数……………54名
- ・出席者……………41名
- ・欠席者……………13名
- ・出席率……………75.93%
- ・8/3の修正出席率…87.04%

■会長挨拶



山川 力 副会長

副会長のあいさつをさせていただきます。失礼があるといけなくて、田中会長に代読するから書いて…と言ったのですが、来期の練習したらと言われましたので、副会長としてあいさつを行います。私は中央ロータリーに入って、来月9月3日で9年目に入りますが、なぜ辞めないのかと言いますと辞めるきっかけがないのです。知り合いの仲間がロータリーって何するとネ!何ネ!とよく聞かれますがみなさんは何と説明されますか?私は今は親睦と友愛とボランティアと答える様にしてあります。RI(国際ロータリー会長のイアンH. S. ライズリー)が、数年前知り合った人から「ロータリーとは何ですか?」「シンプルであるはずのこの質問に答えようと口を開きかけたところで、思わず止まったそうです。ロータリーとは何かをどこから説明してよいのか分からなかったそうです。問題は、ロータリーがあまりにも大きく複雑すぎて簡単に説明できない事でしたと書いておられます。112年の歴史と120万人の会員が全国でいろんな活動ボランティアを行っております。ポリオの絶滅を始め、誰かの人生を良くしているのだと信じております。ロータリーの入会のきっかけが何であれ自分たちがロータリーにとどまり続けるのはロータリーで充実感を得る事だと思えますが、まだ解りませんが何かあるのだと考えております。会員には事業人、職業人、現役で仕事をする人、定年退職をされた方、色々な方がメンバーです。年齢も違います。120万人の会員一人ひとりが一味ちがう経験をしています。一人ひとりがロータリーを独自の解釈をして理解しているのだと思います。まず、自分が何か行動を起こそうとする時に、まずロータリーアンだと言う事を考えます。みんなに迷惑をかけられない、悪いことで新聞に出るような事があつたら止めないといけなくて、色々考える様になった事で

す。今日は模擬面接がございまして、時間を考えて以上で終わります。ありがとうございました。

■幹事報告

生駒俊明 幹事



- ・米山梅吉記念館賛助会員募集のお知らせ
- ・「九州北部豪雨災害」被害者への支援への支援について 当2730地区では各クラブ会員1人当たり1,000円を目安に義捐金を募りお願いすることになりました。

■委員会報告

フェローシップ委員会

高野広美 委員長



9月21日(木)は夜間例会(観月会)を行います

ホテルマリックス 6:30～

多くの参加をお待ちしております

■台湾交換留学生事業について

国際奉仕委員会



篠原英介 委員長

今年の事業はいくつかの不運はありましたが、それを上回る幸運に恵まれ、何とか終わることができました。今後は、少しでも次年度以降の参考になるような情報を残していくよう努めます。特に、ホームステイの受け入れに関しては、毎年避けられない障害だと感じていますので、過去受入れ経験のある皆さんからもご意見を戴きたいと考えています。引き続きご協力の程、宜しくお願い致します。

■インターアクト委員会 江口健一 委員長



本日は宮崎海洋高校の模擬面接を行こないます 面接官になられております会員様は例会終了後移動をお願いします 前年度のアンケート集計が届いておりますので参考に

- していただき本日はよろしくお祈いします
- アドバイスが少しくなくて質問コーナーなどをひらくとよりよく面接に自信が持てると思います
 - ニュースのことを聞かれたときに答えられなかったもので次はしっかりしたいです
 - 声の大きさやスピード話し方の内容や具体性が大切だと思った
 - 先生との面接よりもより現実味があって自分のためになりました
 - 実際の企業の方からの面接は緊張感が一層増して良い雰囲気での面接だった
 - 面接の準備はしても足りないぐらいなので十分にしておいたほうがいい
 - イメージトレーニングや一人で練習するより実際に模擬面接をすると全く違ってすごくいい勉強になった
 - もっと声を大きくメリハリのあるしゃべりをしないといけないと思った
 - 教室の雰囲気がとても緊張した また他の人にも見られていてすごく不安だったけど友達の良いアピール法などを聞いて参考になった
 - とても難しい質問もあり実践に近い状態で勉強になった 質問に対しての答えをもっと考えたい

■ゲスト卓話 日本銀行 宮崎事務所長 宮阪隆彦 様



長寿となり、「生きる力」、「自立する力」が大切な時代となった。ただこれだけでは不十分だ。「お金と向き合う力」も必要だ。「金融リテラシー」とも言うが、これは単に生活設計や家計管理のことだけを指すのではない。「金融」や「経済」のことを知り、フィンテックなどの「新しい動き」も理解することも含まれると考えている。こうしたことを知らないで将来にわたって逸失するものが大きいと思う。本日は、その中で「日本銀行の金融政策」に関してお話をさせて頂く。その前提として日本経済の状況について知っておく必要があると思う。実は日本

経済の調子はよい。専門的には、日本経済は「緩やかに拡大している」と、「拡大」という言葉を使っている。産業の厚みのない宮崎にいと、中々実感が湧かないと思う。それは、宮崎は全国のように経済が「緩やかに拡大」している訳ではなく、漸く「緩やかな回復」局面に入ったばかりで、九州の中でも景気回復が遅れているからかもしれない。日本経済全体をみると、海外経済の成長に支えられ、輸出は増加基調にある。国内需要の面では、設備投資が緩やかな増加基調にある。個人消費も雇用・所得環境の着実な改善を背景に底堅さを増している。公共投資も増加基調にある。こうした内外需要の増加を反映して、鉱工業生産は増加基調にあり、労働需給は引き締まりを続けている。こうした状況にある訳であるが、消費者物価（除く生鮮）は、前年比0%台前半に止まっている。日本銀行の金融政策では、オーバーシュート型コミットメントや、イールドカーブコントロールという手法を導入し、消費者物価指数（除く生鮮）を前年比2%の水準にしようとして、大規模な強力な金融緩和を続けているのだが、残念ながら目標に届いていない。勿論、所得環境の改善を伴ったうえで物価が改善しなければ意味がないので、所得ももっと上がる必要がある。パートの時間当たり賃金の上昇に比べると、正社員の賃金の上昇率は決して高くないからだ。現状では生産性向上などに力点が置かれているのだと思う。なお、強力な金融緩和により、企業の資金繰りは「楽である」とする先が増え、企業の資金調達コストはかなり低くなっている。内外需要の増加もあって企業収益は改善している。金融緩和は企業の経済活動や日本経済にプラスに働いている点を含め、本日は、日本銀行の金融政策について少しでもご理解を頂ければ幸いである。

出席委員会報告 甲斐裕隆 委員長

◆8/3メイクアップ者名 (敬称略)

生駒俊明、片木重光、佐藤龍三郎、橋口 淳、秦喜八郎、湯浅敏幸、渡邊 勝

発行/ 宮崎中央ロータリークラブ

●事務局 〒880-0804 宮崎市宮田町10-25 宮田町ビル TEL.0985-22-6767 FAX.0985-22-0288
●例会場 〒880-8545 宮崎市山崎町浜山 シーガイアコンベンションセンター TEL.0985-21-1155(毎週木曜 12:30~13:30)
会長/田中 寿 副会長/山川 力 幹事/生駒俊明